ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報紙

Take free!

なび

11月号
vol. 105

巻頭特集

にしなりの小遺産
こいさん

「43号線からハルカスを見る」
南開西交差点近くの歩道橋より撮影

巻頭特集

にしなりの小遺産 こいさん

にしなりのまちの遺産を発掘しにいきます。歴史や地域が育てたのは建築物や遺跡などだけではありません。人も大切な遺産なのです。わたしたちはそれを小遺産（こいさん）と呼び、まちの小遺産を発掘しつづけます。

こいさんプロジェクト：若松司／西田吉志／佐々木敏明

転がりつづける石のように
――これは運命？

井上さんがこの世に生を享けたのは1967年、生家は鶴見橋商店街近くの長屋。占いでは男の子に生まれてくるはずだったらしく、子どもの頃は男まさりのケンカ三昧、友だちも男の子ばかり。そんな少女時代を過ごした井上さんが転機を迎えたのは、医学系専門学校での出来事だった。解剖実習の教材はもちろん人体。そのため最初は数珠を手にして臨むほど怖気づいていたが、ある日、腹部に見覚えのある大きな肉を見つけた。「ハラミに似ている…」。そのとき牛と人の内臓が同じかたちであることに気づき、井上さんは人体のしくみに興味をもつことになったのである。

また、教材の人体が献体であることを知って、いたく感動。「自分も何か世の中のためになることをしたい！」と献血にいった。すると、自分がB型肝炎に罹っていることが判明する。医療ミスによる感染であったものの感染力は微弱だった。しかし学校はそれ以来授業を受けさせてくれず、中退を余儀なくされた。

中退後、井上さんは宝飾品を作る職に就いた。当時はバブル期の真っただ中、あまりの繁忙ぶりに家に帰れないこともよくあったが、その代わり「たくさん稼がしてもらった」そうだ。しかし皮肉なことに、好景気の恩恵を受けていたはずの社長が過労で亡くなった。ふと「何のために働いてるんやろう？」という疑問がわいた。いくら稼いでも死んだら終わり。自明といえばあまりに自明なこの事実を目の当たりにし、井上さんはその会社を離れることにした。

こいさん❺ 井上 比登美さん

今回の取材相手はかつて㈱ナイスに在職していた西成生まれの井上比登美さんである。井上さんは巧みな話術で自分の世界を創り上げていく。おそらくは生まれもってのセンスと人生経験の蓄積が下地を成しているのだろう。いろんなことを発見しては感動し、言葉に感銘するたびに人生を前に進めてきた、こいさんの半生をお届けします。

ナイスな広告塔
――きっとご縁だよね！

紆余曲折を経てきたはずの井上さん、今度はパソコンに興味をもつようになっていた。偶然にもパソコン教室「西成電遊クラブ」に目が止まり、その塾長だった黒田さんが以後のご縁を導いてくれた。㈱ナイスの社長、冨田さんとの出会いはそんなご縁のひとつだった。一時期、冨田さんの脇にはつねに井上さんがいて、いろんなところに取材に行っては会社のホームページで記事にしていた。学生障がい者の無年金問題を取材したり、国賠訴訟を傍聴して記事にしたこともあった。市会議員のニュースレターの作成助手をしたこともあった。

いつしか井上さんは㈱ナイスの広告塔になっていた。本誌『なび』の創刊・編集も井上さんが手がけた仕事の一つだった。本誌の誌名「なび」は、韓国語の「チョウチョ」という意味を重ね合わせたものだった。井上さんがチョイスした表紙の写真も上々の評判だった。やはり言葉のセンスが光彩を放っている。

佐々木（現『なび』編集スタッフ）が運営している「楽塾」にも協力してくれた。井上さんの友人ニューハーフのあさみちゃんを講師に招いたときは史上最高に盛り上がり、いまでも語

初期『なび』の表紙

り草になっている。生徒のなかには影響を受けて自らの過去をカミングアウトした人もいたとか。お祭りで企画した流しそうめんも、すべてが手作りで大変だったが楽しい思い出の一つである。

これらの活動を通じて地元とのご縁を大切にしてきた井上さんは、しかしながら再び転機を迎え㈱ナイスを去っていくことになる。

DANKはLight work
――ご恩を贈っていくよ～

いつの頃からか仕事をしていて、ふと自分の将来の姿を思い描いてみると、「自分の人生って、このままでええんやろか？」と考える日々が続いていた。仕事の軋轢はあったが、生きがいは感じていた。しかしそれは与えられた仕事であって、自分がやりたい、好きだと思うことではない。今、それができなくなっている。「自分で何かしたい…」。そう思い悩んでいたときに、ある人の講演を聴いて心のスイッチが入った。

そうなれば早い。井上さんは㈱ナイスを退職し、エステティシャンの道を歩み始めた。が、それも束の間、お客さんの身体に触れさせてもらっているうちに「人間の身体は食べ物でできている」ことに気づく。井上さんは飲食業の経営を決意した。出資者を探し歩く日々、ある人との何気ない会話のなかで自分の夢を語るとチャンスが舞い込んできた。「急に出店できなくなった店舗が一つある。ホンマにやるんやったら貸してやるが、ホンマにやるか？」井上さんは即決し、いまの場所で「DANK」（ドイツ語で「感謝」の意）を開店する。2009年8月のことだった。

井上さんの言葉は本当の意味でキャッチーだ。「DANK」の経営理念をたずねると、「売り物はお酒ではなく、『わたし』と返ってきた。お客さんは出会いやコミュニケーションを求めていることを確信し、そのニーズを掴んだら負けないという自信がなければこんな答えは返ってこないだろう。また、こんなふうにも言っていた。「わたしの仕事は『ライトワーク』やねん。仕事はいろいろあるけど、『ライスワークRice work』はご飯を食べるための仕事。『ライクワークLike work』は好きでやっている仕事。『ライフワークLife work』は人生をかけてやる仕事。わたしは、人生ってキャンドルサービスのように、いろんな情報やモノをシェアしていくことが必要なんじゃないかって思う。みんなが明るくなっていくように。だから『ライトワークLight work』。」

取材では店内のお客さん数人に「DANK」の魅力をたずねてみた。――「井上さんは一つ年上だけど、恋人ともお母さんともちょっとちがうバランスかな。口説いたろか、というのでもない、ホッとするかんじがいいのかな。やわらかいかんじ。」

もちろん、おいしいご飯も大きな魅力。近くに来たら「DANK」に寄ってみてはいかが？ 西成生まれのローリングストーンズなこいさんがいてはります。

文責：若松

旧友と語らう

DANK ファンがつくる店内メッセージ

ダイニングバーDANK
大阪府大阪市北区小松原町1-1 小松原ビル3F
TEL：06-6131-1330
営業時間：11：00～16：00・18：00～2：00（ラストオーダー1：30）
定休日：年末年始、お盆

き~んこ~ん か~んこ~ん

こどもたちを育むには、学校と家庭に加え地域の役割がとても大切です。ただ、学校がどんなことをしているのか知っている人は案外少ないのでは？ということで、これから学校の様々な出来事や取り組みをお知らせしていきます！

5時間目：梅南中学校

頑張ってるこどもを地域で応援や！ 梅南中学校

文化祭２年１組の劇「アニー」

梅南中学校は、創立から44年目！

西成区北西部の教育現場・出来事にスポットライトを当てるこのコーナー、5回目は梅南中学校です。梅南中学校は１９７２年６月に鶴見橋中学校より分離・独立して創立されました。これまで取り上げた小中学校よりもかなり若い学校で、今年度で44年目を迎えました。その梅南中学校ではここ数年、学校行事や地域連携に力を入れた取り組みが行われており、その中身について山咲進一校長先生と話をしてきました。

地域連携の３本柱 学校、ＰＴＡそして学校協議会

地域連携については、学校協議会とはとても深いつながりが築かれています。学校協議会の役員の方々は「授業参観」、「体育大会」や「文化祭」などの学校行事への参加、年４回の協議会、朝のあいさつ運動、関係諸機関との連携・協力など多岐に亘っています。とくに会長の又野さんは長年、保護司として卒業した地域のこどもたちを見守っておられます。

ＰＴＡ活動が学校の厚みを増してくれる

ＰＴＡ活動の取り組みも盛んです。管理職と特定の教員（生徒指導主事・教務主任）だけの参加ではきめ細かい連携ができないので、多くの教職員に参加・協力してもらい、保護者と教員が膝を突き合わせ、実行委員会で情報交換できるよう工夫しました。その結果、今では保護者の参加も積極的になってきているようです。

ＰＴＡの「社会見学」についても、参加者が保護者７人という時期もありましたが、ＰＴＡ役員会・実行委員会で意見交換し、当初は「平日実施・電車移動」だったものを「土曜日実施・バス移動」に変更すると30名以上の参加となりました。今年度は梅南津守・松之宮小学校とも合同で行われ、小中連携の強化にも役立っているようです。

上：PTA 実行委員会　下：3 校 PTA 社会見学「生八ツ橋作り」

野球部と PTA ソフトボールチームの試合

また、野球部とＰＴＡソフトボールチームとの試合も実現し、昼休みは保護者の方々が作ってくれたカレーを、おとなもこどもも一緒にいただく交流の機会になりました。１つ１つの取り組みを、ただ単に消化するのではなく、参加してみたいと思えるように創意工夫していくことで、より良いものになっていくとのことでした。

学校行事がこどもたちをいきいきさせる

学校行事については、一人ひとりのこどもが一生懸命に頑張っていけるように、学校全体で良いものを築いていこうと取り組みが進められています。文化祭では、３年生の発表を見た１・２年生の多くが「さすがは３年生」、「来年は自分たちがやりたい」という感想をもったそうです。保護者や地域の方々からの評判もとても良いです。体育大会、入学式、卒業式、日常の部活動、地域行事なども、学校はもちろん「地域総がかりで」という意識で取り組んでおられるそうです。

本当の勝負は授業力！ 教師の力の見せどころ

最後に山咲校長先生は、「学校行事やＰＴＡなどは活性化してきたが、本当の勝負は授業。ここをおろそかにするとこれまでの取り組みが台無しになる。こどもたちの自尊感情や学力を上げていく取り組みを進めて行きたい。」と話しておられました。

レポート：寺嶋公典

文化祭１年生展示作品

［飯島照喜］岡山県の美作市の知人の別宅に先月行ってきました。都会を離れ、緑に囲まれ"静寂"のなか、晴耕雨読の生活をされており、うらやましい限りです。だが、夜のネオンが恋しくなる都会派の私はちっと無理かもと、現実の自分を考えさせられました。

［寺嶋公典］世界が絶賛したラグビー日本代表ですが、注目度はそれほど高くありませんでした。しかし、予想を上回る結果がそれを覆しました。今は無印の「ゆ～とあい」もラグビー日本代表に追い付き追い越せ！

「なび」をつくる(株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。
多様につながる実践を紹介していきます。

ナイスな仲間たち

VOL.20

市民交流センターにしなり
(NPO法人ヒューマン地域振興協会)

人権文化センターから市民交流センターに変わった2010年4月より、指定管理者として「市民交流センターにしなり」を、西成人権協会とともに管理運営するNPO法人ヒューマン地域振興協会。その他にも地域の銭湯(文化温泉・三星温泉)を運営するなど、地域のまちづくりに欠かせない仲間です。そこで、今回は瀧本館長にご登場ねがいました。

地域コミュニティ活動の拠点施設　4つの事業

市民交流センターにしなりは、同和地区の劣悪な環境改善を目的に設置された解放会館(のちの人権文化センター)や青少年会館などの公設置型隣保館の歴史を受け継ぐ形で2010年4月に開館しました。いまも4つの事業を中心に、地域コミュニティ活動の場として親しまれるよう運営に努めています。

■貸館事業
市民や地域住民の様々な活動を応援しています。200人余のホールから各種活動・会議など大小の貸室が低料金で利用できます。土日祝日は多くの人でにぎわいます。

■講座・教室等の開催
(自主事業)
パソコン教室や陶芸教室、イベントなどを実施しています。2014年3月までは〝市事業でほぼ無料〟。いまは事業費削減で利用料金をいただきながら〝受益者負担型の自主事業〟です。

■コミュニティカフェ
(高齢者居場所提供事業)
地域の高齢者の方々に愛された〝プラザ西成〟。大阪市事業廃止後も、存続を願う地域の人々によって、〝コミュニティカフェ〟としてよみがえり、会費制の自主運営で継続しています。

■総合生活相談事業など
隣保館ならではの総合生活相談。専従相談員はいませんが、他の専門機関や地域と連携して相談を継続しています。隣保館的な取り組みとしては、不登校生徒が集う居場所や日本語よみかき事業の拠点としても活用されています。

市民交流センターにしなりの館内風景

上段左から時計回りに:市民交流センターにしなりの外観、地域こども神輿、フリーマーケットの様子、パソコン講座

2016年4月にバトンタッチ

市民交流センターにしなりは2016年3月に閉館します。2010年4月からは隣保館ではなく、区民センターと同じ条例設置施設となり、2012年度には市政改革プロジェクトチームに「利用率が低調」という評価が下され、2014年3月での事業廃止を打ち出されました。そこで多くの地域住民が「市民交流センター廃止反対」と立ち上がりました。その声を受け「廃止時期の2年延長」を市議会も承認し、なんとかここまで事業を継続できました。

でも、2年間の延長期間は厳しい予算での運営を余儀なくされました。大きく変わった点を3つ紹介すると、1つ目は「プラザ西成の廃止」。2つ目は「講座・教室事業の有料化」。そして、3つ目は「運営予算の半減」…。年末年始以外は休みのないセンターを必要最小限のスタッフ数で何とか運営していますが、まさに〝官製ワーキングプア〟を作り出すのか…というほどのものでした。

とは言いながらも、地域の人々や市民の居場所や様々なコミュニティ活動の場を提供しようと、スタッフの想いで維持してきましたが、そろそろ〝さようなら〟の時期を迎えます。幸いにも、地域の力でにしなり隣保館「スマイルゆ〜とあい」が近々完成します。解放会館⇒人権文化センター⇒市民交流センターが担ってきた役割や機能、歴史と伝統を継承されることに期待します。

(文責:瀧本守)

[田岡秀朋]10月は地域の高齢者宅にお邪魔して実態調査。プライベートなことを聞いても、丁寧に答えてくれて、最後は決まって「ごくろうさん。がんばって。」と声をかけてくれた。西成はあったかい。

[沖田一志]組み体操にピラミッドって必要ですか?期待より、むしろ心配して我が子の運動会を見てしまいました。私が子ども時代に大怪我を経験したので心配し過ぎなのかな?とも思う。

[西田吉志]4歩…5歩…10歩…とひとりで歩けるようになった我が娘。トンテントンテンと歩く後ろ姿が愛くるしくてたまりません。次の休日は初めて買った靴をもって芝生のある公園に行こう。

[谷口円]多肉植物を育てはじめました。葉っぱの先に透明感のある、ハオルチアという種類です。植物とはいえ、生き物。ちょっとした責任感と親心が芽生えます。

今月の花：もみじ

花言葉「節制」「遠慮」
「大切な思い出」

もみじは、植物の名称ではなく、紅葉する植物の総称で、紅葉とは、紅や黄色をもみだすように色づく木「もみず木」が語源です。

ある日のRON

この店を始めた頃から毎月、月始めにお店に来てくれている大正区のしげるちゃんの姿をもう、3か月も見ません。いつも缶チューハイ片手に陽気におしゃべりして帰って行くのですが、心配しています。お酒を飲んでいない時は、男前なのですが、缶チューハイ1本で、ベロベロになってしまいます。「どうしたん、元気でやってるのかな」（なんばひとみ）

hidarimaki ぼくの細道

安保法案成立、むせ返る夏の終えん、
そして歯が抜けるように、まちのあちこちに空き地が目立ちます。

忘れず
雲の峰かくのごときかキノコ雲

子らと再会
いっときに孫ら出現秋来たる

まちのひと隅
虫絶へて更地でうめく闇の黒猫

法案成立
十六夜（いざよい）の月群雲にのまれける

ピースのつぶやき

ピースの育ての母の赤井まゆみです。ピースがお喋りしたい事や思っている事を、これからもたくさん感じ取って、みなさんにお伝えしたいと思っています。

『老いても大丈夫』

鏡に映る自分の顔をジッと見た。
目は少し白内障で白いけど
メガネは必要ありません。
鼻先は少し薄れて桃色だけど
匂いは何でもわかります。
口元はチョットゆるんで
への字だけど
何でも美味しく食べられます。
表情は少しシワが増えたけど
いい笑顔は昔のまんま。
次のお誕生日が来たら
12歳になる私。
犬の世界では
高年齢グループの私。
でも心はいつも
若年齢のまま。
もうじき寒い冬がやってくる。
心を温ったか～くして
乗り切るのだワンワン!!

赤井まゆみ

いい湯かげん

あえてリスクをとる

12月竣工を目標に建設している(株)ナイスの新築マンション「パークコート」だが、正直不安だ。

4～6階は、サービス付高齢者住宅30室で「地域立」のヒューマンライツ福祉協会が運営する。生活保護制度改革で住宅扶助限度額が4万2千円から4万円に減額されたのは、工事着工後だった。低所得者対応の高齢者住宅を新築で提供することが異例なうえの家賃減額だから、かなり冒険だ。しかも、介護業界は空前の求人難であるから、コスト高も避けられない。

3階は、国際幼児スクール「スターブレインズ大阪校」が入居する。外国人講師による幼児発達教育で、心と体を鍛え、学びの習慣を身につける施設で、神戸校の実績があるが、西成にマッチするのかと不安視する声は多い。

1～2階は、全国初の試みである「民設置民営隣保館」が入居する。愛称も「スマイルゆ～とあい」と決まり、ヒューマンライツ教育財団が運営する。橋下改革で市民交流センターが廃館になることから、民設置民営に挑むことになった。隣保館、市民館、解放会館、人権文化センターと続いた地域のコア施設を残したいとの解放運動の要望によるが、同対法後10余年、運動の求心力も急速に衰えている。

まさに、「三つのリスク」が重なりあうような事業となった。その点、安保法案を強行採決した安倍内閣は、リスクをとらない「アベ・ノーリスク」に転じた感があるのとは対照的だ。悪評の「一億総活躍」だが、大臣が拉致担当も兼ねるとのことで、看板政策だったはずの拉致問題から逃げたのではないかと勘ぐってしまう。「介護離職ゼロ」より「介護雇用」が先だろうと誰もが言うのに、雇用問題というリスクを避けた。消費増税の軽減問題でも、公明党のご機嫌が大事で、いま一番大事な「格差」に踏み込むことはなかった。信条に固執するがリスクはとらない内閣で、日本は内外で信頼を失うかもしれない。

困難を経てきた地域が、貧しくても一人暮らしでも、居場所と出番のあるコミュニティになれたら素晴らしいことだし、子どもたちの豊かな国際交流が育まれたら素敵なことだと思う。「三つのリスク」は「三つの挑戦」だ。社会福祉法人が「貧しい人の砦」として、財団法人が「隣保の後継者」として、(株)ナイスが「社会的企業」として、背骨を再構築するような事業になるかもしれない。また、この施設だけでは事業性は低いから、全体の事業の安定化を図らないといけない。何より「三つの挑戦」をけん引するのは地域の部落解放運動である。「部落のため」ではなく「幸せのため」の運動である限り、サスティナブル(持続可能な)運動は可能であると思う。

「法がないと公は動かないし、儲からないと民も動かない。しかし、法はなくても、儲からなくても、社会問題は解決しなければならない」。初心忘れずだ。

㈱ナイス代表取締役
冨田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

[若松司] 秋の夜長、最近は『SOFA DISCO』というタイトルのCDを聴いて大人な雰囲気を楽しんでいます。コンセプトが嬉しい逸品です。

[安田拓也] 先月は楽塾で「京都伏見」をピクニック～と言うことで、僕の地元中書島の酒蔵近辺と伏見稲荷を散策してきました。食欲の秋とセットで、秋は京都の散策もぜひお勧めです。

西成カレンダー

「西成で“つながる”秋」編

日本の伝統を学ぶ

こども太鼓教室

日本の伝統の和太鼓を基礎から学ぶとともに太鼓を通じて世代を越えたつながりづくりを目指します。

【申込・お問い合わせ先】
市民交流センターにしなり ☎06−6561−0007

日　時：毎週土曜　午後6時〜7時30分
場　所：大阪市立市民交流センターにしなり2階ホール
対　象：小学3年生〜中高生まで
参加費：無料
持ち物：上靴・タオル・着替え・水分補給のためのお茶など
協　力：松之宮生涯学習ルーム和太鼓教室太鼓グループ「絆」
募　集：随時募集をしています。
詳しくはお問い合わせください。

西成区の恒例イベント

「あったかハートフェスティバル」第19回あったかハートをつないで〜障がい者地域生活支援のつどい〜

大阪市内、西成区内の障がい者施設や作業所、ボランティアグループ等による模擬店・バザーが多数出店。おいしい食べもの、掘り出しもの、こどもたちが楽しめる模擬店、野外ステージまで、1日遊べるイベントです。障がいのある人と地域のみなさんやこどもたちが交流し、お互いの理解を深め「地域で共に生きる」ことを目指して開催されるイベントにぜひ、一度ご参加ください。

日　時：11月14日（土）午前11時30分〜午後3時
場　所：ノア・インドアステージ天下茶屋ふれあい広場

【お問い合わせ先】
西成区役所市民協働課 ☎06−6659−9734

あとがき

秋の一日を、京都の伏見界隈で遊びました。古くからの酒蔵がならび、宇治川からの分流が風情ある水路を残し、裏道では戦後の町家、モダンなアパートやお風呂屋さんが当時のままで営業しています。観光地なら、どこもがレトロ調厚化粧の土産町と相場ですが、ここは一味違う町並で落ち着きました。竹田街道は、明治期、京都駅から京橋（寺田屋付近）まで民営の電車が走っていたとあり、たいへん興味を持ちました。　（佐々木）

なび１１月号（vol.105）
発行日：2015年１１月１日（創刊日：2007年１月１日）
発行：株式会社ナイス
発行人：代表取締役 冨田一幸
印刷：有限会社前山企広
住所：大阪市西成区長橋 3-6-33　電話：06-6563-1156
E-mail：info@nice.ne.jp
url：http://www.nice.ne.jp/

編集長：寺嶋公典
編集：飯島照喜、沖田一志、佐々木敏明、田岡秀朋、西田吉志、安田拓也、若松司（あいうえお順）
イラスト：hidarimaki　デザイン：谷口円